

報告事項才

平成30年度全国学力・学習状況調査の実施について

平成30年度全国学力・学習状況調査の実施について、別紙のとおり報告します。

平成30年3月17日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

平成30年度全国学力・学習状況調査の実施について

平成30年3月17日
小中学校課
県教育センター
高等学校課

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査について

(1) 本体調査

- ◇調査実施日：平成30年4月17日（火）
- ◇調査対象：小学校6年生、中学校3年生（原則として全児童生徒）
- ◇調査内容：
 - ①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ・主として「知識」に関する調査（A問題）
 - ・主として「活用」に関する調査（B問題）
 - ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙調査）
 - ・学校に対する調査（学校質問紙調査）
- ◇調査方式 全数（悉皆）調査方式で実施（参照：資料1）
→実施学校数等は資料2のとおり

(2) 中学校の英語予備調査

平成31年度全国学力・学習状況調査の中学校調査における英語調査の確実かつ円滑な実施に資することを目的に実施。

- ◇調査実施日：平成30年5月1日（火）から5月31日（木）の期間中、調査の対象となった学校が実施可能な1日
- ◇調査対象：文部科学省が調査対象として抽出した公立中学校3年生（全国で136校が対象）
- ◇調査内容：
 - ①教科に関する調査
 - ②質問紙調査
 - ・生徒に対する調査（生徒質問紙調査）
 - ・学校に対する調査（学校質問紙調査）

(3) その他(参考)

<平成31年度予定>

- ・調査日：平成31年4月18日（木）
- ・全数（悉皆）調査方式で実施予定（国語、算数・数学、英語（※中学校のみ））

平成30年度 全国学力・学習状況調査

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

調査実施日：4月17日（火）

調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"> •身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 •実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> •知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 •様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 <p style="text-align: right;">など</p>

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

時間割

◎小学校（児童質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	
国語A（20分）、算数A（20分）	国語B（40分）	算数B（40分）	理科（40分）	児童質問紙

◎中学校（生徒質問紙は、5時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	
国語A（45分）	国語B（45分）	数学A（45分）	数学B（45分）	理科（45分）	生徒質問紙

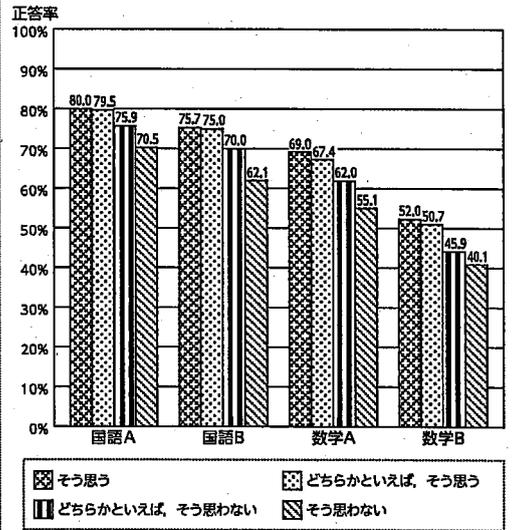
調査結果等の集計・分析・提供

集計・分析

- ◇国全体、各都道府県、地域の規模等における調査結果を公表
- ◇児童生徒の学習環境や生活習慣、学校における指導や教育条件の整備状況等と学力の関係を分析、公表

▼公表する調査結果の例

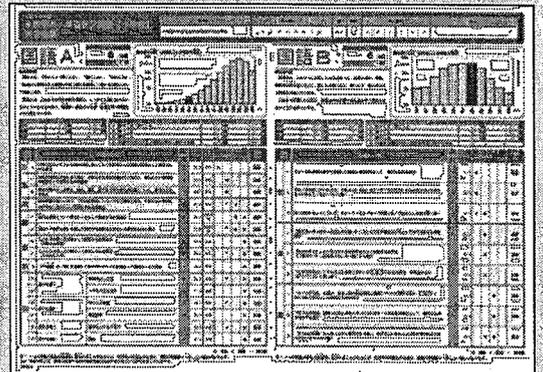
◇生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
(平成29年度調査：中学校)



提供

- ◇各教育委員会、学校に以下の調査結果を提供
 - 児童生徒の正答数分布図
 - 問題別正答率・無解答率、類型別解答状況
 - 質問紙調査の結果
 - 各児童生徒に提供する「個人票」 など

▼「個人票」のイメージ



小学校・理科 (平成27年度)

水の三態変化

3 ゆかりさんたちは、アイスマルクティーとそれに入れる砂糖をつくることにしました。

(1) ゆかりさんたちは、アイスマルクティーをつくるために、ポットに水を入れてふっとうさせました。

ポットの上の(ア)の部分に、白く見える水蒸気があるよ。

としおさん

ゆかりさん

水蒸気は、水が(ア)だから、ゆかりさんが白く見えると言っているものは、水蒸気ではないよ。

としおさんのことばの(ア)にあてはまるものを、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1 気体にすがたを変えて、目に見えなくなったもの
- 2 液体にすがたを変えて、目に見えなくなったもの
- 3 固体にすがたを変えて、目に見えなくなったもの
- 4 消えてなくなって、目に見えなくなったもの

●出題の趣旨

水蒸気は水が気体になったものであることを理解しているかどうかをみる。

●正答

1

(正答率 82.0%)

中学校・理科 (平成27年度)

魚のえらぶたの開閉回数と水温の関係を科学的に探究する(生物的領域)

8 綾さんは飼育している数種類の水魚を観察していたところ、季節によってえらぶたの動きの違いがあることに気づき、実験を行いました。
(1)から(3)までの各問いに答えなさい。



レポートの一部

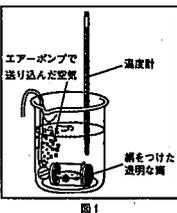
目的 ハゼのえらぶたの開閉回数は、水温によってどのように変わるのだろうか。

【方法】

- ① ハゼを3匹用意する。
- ② 水温の条件を変え、それ以外の条件は同じにして、30秒間のえらぶたの開閉回数を数える(図1)。
- ③ 3匹の平均値を求める。

【結果】

水温	10℃	15℃	20℃	25℃
ハゼA	7	14	28	42
ハゼB	7	20	32	38
ハゼC	11	18	36	48
平均値	8	17	32	43



【考察】

【結果】の表1から、水温が10℃から25℃の範囲では、ハゼのえらぶたの開閉回数は、水温が高くなるが増えると考えられる。

(1) ハゼのように背骨のある動物を、背骨のない動物に対して何といいますか。その名称を書きなさい。

(2) 【方法】③で平均値を求める理由として最も適切なものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 水温によって、えらぶたの開閉回数が増えるから。
- イ 測定する時間の長さによって、えらぶたの開閉回数が増えるから。
- ウ 空気量によって、えらぶたの開閉回数が増えるから。
- エ それぞれのハゼによって、えらぶたの開閉回数が増えるから。

●出題の趣旨

(1) 背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができるかどうかをみる。

(2) 水温の違いによるハゼのえらぶたの開閉回数を調べる実験で3匹の平均値を求める場面において、測定値の平均の知識(小学校算数、小学校理科、中学校数学)を活用して、平均値を求める理由を説明することができるかどうかをみる。

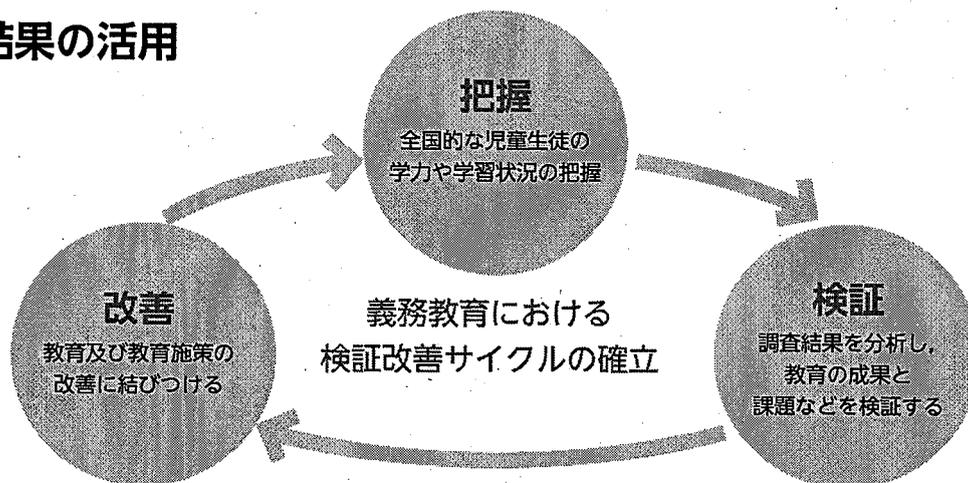
●正答

(1) | セキツイ動物

(2) | エ

(正答率 (1) 64.0%, (2) 56.4%)

❖ 調査結果の活用



国	教育の改善に向けた全国的な取組を推進	(例) 学習指導要領の改訂, 各種施策の検証・改善, 教員の配置等への支援, 教育委員会や学校における改善の取組への支援 など
教育委員会	域内の教育の改善に向けた取組を推進	(例) 教員の配置等の工夫, 教員研修の充実, 教育指導等の改善のための資料の作成, 保護者や地域と連携した取組 など
学校	個々の児童生徒の課題に応じた教育指導の改善に向けた取組を推進	(例) 課題を踏まえた授業改善の取組, 校内研修の充実, 家庭における学習習慣や生活習慣の確立に関する保護者への働きかけ, 放課後等における補充学習の実施 など

◎全国学力・学習状況調査を活用するための参考資料等

■全国学力・学習状況調査解説資料

調査の実施後, 各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況, 課題等を把握するとともに, それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実等に取り組む際に役立てることができるように作成したもの。

■全国学力・学習状況調査報告書

調査結果を公表するとともに, 調査結果を踏まえて学習指導の改善・充実を図る際に役立てることができるように作成したもの。各問題について, 解答類型と反応率, 分析結果と課題, 学習指導の改善・充実を図る際のポイント等を記述。

■授業アイデア例

各学校において, 今後の教育指導や児童生徒の学習状況の改善等に活用できるようにするため, 全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて, 授業の改善・充実を図る際の参考となるよう, 授業のアイデアの一例を示すもの。

■全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ

平成19～22年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し, とりまとめた資料。

(概要)

- 各教科の領域等ごとに, 児童生徒の「成果」と「課題」を整理
- 特に「課題」については, 児童生徒一人一人の学習内容の着実な定着を目指して, その解決に向けた詳細な分析を行い, 学習指導の改善・充実の参考となるポイント等を記載

■全国学力・学習状況調査の結果を活用した実践研究の成果報告書

調査結果から明らかになった課題に対して, 教育委員会, 学校等が連携しながら学校の教育活動等の改善に取り組んだ実践研究の概略等を掲載した報告書。

■全国学力・学習状況調査の結果を用いた追加分析

国や教育委員会, 学校等の教育活動や, 教育施策の一層の改善を図るため, 大学等の研究機関の専門的な知見を活用し, 高度な分析・検証を行った調査研究の報告書。

(分析例)

- 家庭の社会経済的背景と学力の関係に関する調査研究
- 良好な結果を示した教育委員会・学校等における教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究

これらの資料は,
文部科学省 HP
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm
国立教育政策研究所 HP
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>
に掲載されています。

平成30年度全国学力・学習状況調査の実施予定について

平成30年4月17日に実施される平成30年度全国学力・学習状況調査（全数調査）の鳥取県内公立学校の実施予定校数と児童生徒数です。※公立学校のみ

【学校数】

	調査対象校	実施予定校	実施率
小学校調査	126校 義務教育学校前期課程 3校 特別支援学校小学部 1校	126校	100%
中学校調査	61校 義務教育学校後期課程 3校 特別支援学校中学部 2校	61校	100%
合 計	187校	187校	100%

【児童生徒数】

(人)

	参加人数
小学校調査	約4,900
中学校調査	約5,000
合 計	約9,900

※平成29年度「学校便覧」の小学校5年生の児童数及び中学校2年生の生徒数を参照

平成30年度 英語予備調査について

● 趣旨・目的

平成31年度に実施する全国学力・学習状況調査から、3年に一度程度、中学生の英語力を測定する調査を実施する予定。この調査の実施方法等について事前に検証するため、平成30年度に予備調査を実施。

● 調査内容・実施方法

※以下は現時点での想定。調査実施方法の詳細は、調査の委託業者と調整後改めて連絡。

- ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を調査。
- ・調査資材は文部科学省・委託業者にて作成・送付。調査の監督者は各学校の教員等が担当し、採点は文部科学省・委託業者において実施。
- ・「聞くこと」「読むこと」「書くこと」は1授業時間で実施し、「話すこと」は同日の別の時間に実施。
- ・「聞くこと」はCD等を教室で再生する形式。解答はマークシート式による選択式。
- ・「読むこと」の解答はマークシート式による選択式。
- ・「書くこと」の解答は記述式・短答式を含む。
- ・「話すこと」はPC等の機器に音声を吹き込む形式。当日の調査時間は準備・移動時間等を含め、1回当たり15分程度を予定。PC教室等のPCで調査を実施するため、各学校でPCに調査用USBを使用できるようにするなどの事前準備が必要。一度に1クラス程度の生徒が同時に調査を受け、1授業時間に3クラスが順に調査を受けられる。
- ・英語教育の状況等を問う学校質問紙調査・生徒質問紙調査も併せて実施する。
- ・教育委員会及び学校の判断により、教育課程上1.3単位時間相当として取り扱うことを可能とする。

● 調査実施スケジュールのイメージ

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目
「聞くこと」 「読むこと」 「書くこと」 (45分)	「話すこと」 3年1組 3年2組 3年3組 (他のクラスは 授業等)	「話すこと」 3年4組 3年5組 3年6組 (他のクラスは 授業等)	「話すこと」 3年7組 3年8組 3年9組 (他のクラスは 授業等)

※10学級以上の学校は追加で調査機材を手配するなど、別途対応を調整中

● 調査対象

- ・各都道府県・指定都市から推薦された2～4校を対象(全国で136校)。
- ・調査対象校の選定に当たっては、学校規模等を考慮。特別支援学校も対象。

● 調査日時

平成30年5月中、調査対象校が対応できる1日で調整。

平成29年度全国学力・学習状況調査結果を活用した学力向上に向けた取組

小中学校課
県教育センター

1 本県独自の抽出調査による取組

国の結果公表前に県内における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的として本県独自の抽出調査を実施。

○県独自で作成した集計支援ツールの送付（5月11日）

各学校における自校採点分析を支援するための集計支援ツールを作成し、各学校へ送付。

○第1回指導主事等研究協議会（5月16日）

抽出調査結果における正答率の低い問題（5～6問）について、解答類型に対する反応率を基に児童生徒のつまずきについて分析を行い、分析資料を作成し、各学校へ送付。

○第2回指導主事等研究協議会（6月5日）

第1回指導主事等研究協議会で行った分析を基に、系統的な指導、教科等横断的な指導の視点から授業づくりで大切にしたい点について整理した資料「授業づくりで大切にしたいポイント」を作成し、関連資料と併せて「平成29年度全国学力・学習状況調査抽出分析結果活用資料集」としてCDにまとめ、各学校へ送付。「授業づくりで大切にしたいポイント」については、県教育委員会指導主事が校内授業研究会等の指導助言の際に活用。

○学力向上推進に係る説明会（東部：7月24日 中部：7月31日 西部：7月27日）

抽出調査結果における成果と課題及び課題解決に向けた校内研究のあり方について理解を深めるための説明会を各地域で開催。

2 国の調査結果公表を受けての取組

(1) 算数・数学の課題解決に向けた取組

■第3回指導主事等研究協議会（10月31日）

近年の本県の課題である算数・数学の課題解決に向けた授業改善の在り方について協議を行い、協議内容を小中学校課で取りまとめた冊子「算数・数学の授業づくり（試作版）」として、参加地教委へ配布し、県教育委員会、市町村教育委員会指導主事等が学校に対して指導助言を行う際の参考資料として活用。冊子については、次年度改訂を行い、各学校へ配布の予定。

■学力向上に係る研修会の開催（1月30日）

環太平洋大学から講師を招へいし、学力調査を活用した国語、算数の授業改善に係る講義と、質問紙調査で課題となっている「家庭学習の充実」「同僚性の構築」についての鼎談を実施。

(2) 家庭・地域への啓発

■学習習慣・生活習慣の確立に向けたリーフレットの作成・配布

ワーキング・グループによる児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査の分析を行い、学力向上を支える基盤となる望ましい学習習慣・生活習慣の確立に向けた啓発資料を作成し、各学校及び保護者に配布。

(3) 全国学力・学習状況調査の活用による取組の推進

■学力向上の取組に係る好事例の収集と共有

各小中学校におけるエビデンスに基づくPDCAサイクルの確立に向け、全国学力・学習状況調査を活用した学力向上に向けた取組を推進している市町村や学校の取組をパネルにまとめ、「鳥取県教育研究大会」で紹介。

■冊子「学力向上を支える基盤づくり」の作成・配布

平成28年度全国学力・学習状況調査結果の質問紙調査と教科調査の2教科平均正答率のクロス集計による学力と関係の深い4項目（「基礎・基本の定着」「学校における家庭学習の指導」「同僚性の構築」「学習規律の徹底」）について、その取組の具体と留意点、県内外の好事例、チェックシートをまとめた冊子を作成し、各学校全教員に配布。

平成29年度全国学力・学習状況調査活用に係る取組

月	鳥取県教育委員会 事務局	市町村（学校組合） 教育委員会	市町村（学校組合）立小・中・特支学校
3月	・市町村（学校組合）教育委員会へ抽出調査への協力依頼	・管内の小、中、特別支援学校へ依頼	
4月	4月18日（火）調査実施		
	【21日（金）まで】各局が回収 【24日（月）～26日（水）】採点作業	【19日（水）～21日（金）】各学校からコピー受取	【18日（火）】各学級3人分ずつコピー
5月	集計支援ツール作成・配布		【5/11】集計支援ツール
	第1回指導主事等研究協議会 ・市町村（学校組合）教育委員会と協働で抽出調査結果を分析		
	抽出調査結果・分析結果を各学校へ配布		【5/23】抽出調査結果・分析結果 （設問別正答率、教科別レーダーチャート、解答類型の反応率）
6月	第2回指導主事等研究協議会 ・市町村（学校組合）教育委員会と協働で授業改善のポイントを作成		
	授業改善のポイントを各学校へ配布・公表		【6/15】授業改善のポイント
7月	【7/24 東部、7/31 中部、7/27 西部】学力向上推進に係る説明会 ・教員を対象に、抽出調査結果における成果と課題及び課題解決に向けた校内研究のあり方について説明		
8月	国から調査結果の公表		
9月	リーフレット作成WG会議		
10月	第3回指導主事等研究協議会 ・算数・数学の課題解決に向けた授業づくりについて協議		
11月	リーフレット配布		【11/10】リーフレット
12月	第3回指導主事等研究協議会のまとめ送付	【12/18】算数・数学の授業づくり	
1月	学力向上推進に係る研修会 ・講師を招へいし、学力調査を活用した授業改善、教育活動の改善についての講義等		
3月	冊子「学力向上を支える基盤づくりに向けて」作成・配布		【下旬】学力向上を支える基盤づくりに向けて

全国学力・学習状況調査を生かした取組の状況

平成30年3月17日
小 中 学 校 課

全国学力・学習状況調査を生かした取組の状況（H28・29年度学校教育実施状況調査結果比較）

- 「調査実施後の自校採点・分析」や「自校採点・分析結果を基に課題解決に向けた研修の実施」を行う学校の割合が増加しており、早期からの授業改善に取り組む学校が増えていることがうかがえる。
- 小学校、中学校いずれにおいても、自校の分析結果を授業改善まで結び付けている学校の割合が増加している。
- 学力調査を活用した授業改善の取組が広がりつつある状況であり、このような取組が全ての学校に定着するよう引き続き県教育委員会としても働きかけを行っていくことが必要である。

【小学校】

項 目	H28年度	H29年度	比較
全職員で問題を解き、調査問題の趣旨等について確認	62.0%	65.6%	3.6%
調査実施後の自校採点・分析	33.3%	48.0%	14.7%
自校採点・分析結果を基に課題解決に向けた研修の実施	29.5%	37.6%	8.1%
自校採点・分析結果を活用した授業の実施	14.0%	24.8%	10.8%
県抽出分析結果を活用した授業の実施	24.0%	18.4%	-5.6%
調査結果(8月返却)を活用した分析	91.5%	88.8%	-2.7%
調査結果(8月返却)を活用した分析の分析を基にした研修の実施	82.2%	80.8%	-1.4%
調査結果(8月返却)を活用した授業の実施	55.8%	57.6%	1.8%
国が発行した報告書(授業アイデア例など)等の活用	55.0%	56.0%	1.0%
調査結果(8月返却)の保護者や地域への情報提供	97.7%	97.6%	-0.1%
「みんなでつくろう!とっとりの学び」リーフレットの活用	96.9%	98.4%	1.5%

【中学校】

項 目	H28年度	H29年度	比較
全職員で問題を解き、調査問題の趣旨等について確認	26.3%	21.1%	-5.2%
調査実施後の自校採点・分析	17.5%	38.6%	21.1%
自校採点・分析結果を基に課題解決に向けた研修の実施	8.8%	15.8%	7.0%
自校採点・分析結果を活用した授業の実施	7.0%	15.8%	8.8%
県抽出分析結果を活用した授業の実施	21.1%	29.8%	8.7%
調査結果(8月返却)を活用した分析	87.7%	87.7%	0.0%
調査結果(8月返却)を活用した分析の分析を基にした研修の実施	63.2%	50.9%	-12.3%
調査結果(8月返却)を活用した授業の実施	45.6%	63.2%	17.6%
国が発行した報告書(授業アイデア例など)等の活用	59.6%	59.6%	0.0%
調査結果(8月返却)の保護者や地域への情報提供	91.2%	96.5%	5.3%
「みんなでつくろう!とっとりの学び」リーフレットの活用	96.5%	91.2%	-5.3%